



人権講演会がありました。

12月4日(金)の1, 2限目に体育館に集まり人権講演会が行われました。最初に1年4組の服部孝太郎さんが「差別とは」と題した人権作文を発表しました。今日あるさまざまな差別について述べ、自分の体験を通して、「人々が他の人の心を思いやることで差別は消える」と訴えました。真剣に耳を傾けるみなさんの心に、その言葉が届いたと思います。

続いて実写版『聲の形』を見ました。『聲の形』は聴覚に障害を持つ少女をいじめた子が、逆にいじめられる立場になったことで、少女の思いを考えるようになるという映画です。なぜいじめが起こったのかやいじめに対してどう行動すればよいかなどについて考え、話し合いました。話し合っていく中で、これからどういう行動や振る舞いをしていくかを書いて、模造紙に貼りました。どのクラスもいじめを身近な問題として捉え、活発な意見交換をする姿が見られました。意見が貼られた模造紙は昇降口や階段などに掲示されています。他のクラスの意見を読んで「いじめのない仲間との関係をつくるうえで大切なことは何か」について考えを深めてください。

保護者会の日にも掲示していますので、保護者の皆様にはぜひご一読いただき、お子様と人権やいじめについて語り合うきっかけにしていいただければと思います。

人権講演会の感想と様子

孝太郎さんは本当に口だけではなくて、小学生のころからきちんと間違っているというし、だれに対しても公平に接しているからすばらしいと思う。私も頭では分かっているはずだから、行動でも、差別をしないようにしようと思った。

障害など生まれつきのことで差別を受けるのは理不尽だと思いました。自分のせいじゃないものを受け入れてもらえないのはとても悲しいことだと感じました。差別は今もまだ残っていると思う時がたまにあり、そういうときに心が痛くなります。私は差別をして人を傷つけないようにします。

差別は人の心を傷つける弾丸、その引き金を引かないように相手を思いやっていきたい。

周りがいじめていてもつられない、人の気持ちを考えて行動することが大切である。



孝太郎さんは本当に口だけではなくて、小学生のころからきちんと間違っているというし、だれに対しても公平に接しているからすばらしいと思う。私も頭では分かっているはずだから、行動でも、差別をしないようにしようと思った。